

一般社団法人 奈良市手をつなぐ親の会。奈良美鹿の会

2020 年度(令和 2 年度)活動のまとめ

(2020 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日)

(2020 年度方針から)

法人活動方針

一般社団法人の事業展開、及び社会福祉法人への移行(令和 4 年)の組織・事業展開について役員会を中心に「プロジェクト会議」を本格的に始動して、職員、関係者も一緒に話し合い、「利用者ファースト」の「新しい発想、精神の社会福祉法人」づくりをすすめます。

→総括

・コロナ感染症の発生、拡散に伴い役員が集まって実施する「役員会」が開催できず、法人、事業所のための役員会も新しい法人づくりの「プロジェクト」も十分におこなうことができませんでした。常任役員会(小西、佐藤、勝本)は週一回概ね開催出来ました。

事業所(ちいさな小枝)運営方針

1 ①障害者総合支援法、労働基準法等コンプライアンスに努め、公正適正な運営をおこないます。

→総括

- ・法に従い、公正な請求業務をおこないました。
- ・個別支援計画を遅滞なく作成しました。
- ・所員、職員ともに労働基準法以上の条件の維持に努めました。
- ・法令に従い、可能な加算の変更等を適時申請し、受理されています。

② 各「委託事業」を誠実、確実におこない、委託事業の安定をはかります。

→総括

- ・各委託事業先と友好的な関係を築くことができました。とりわけ、奈良公園(愛護会委託事業)においては、公園内の店、煎餅販売員の方々と気軽に言葉を交わし、交流出来ました。また愛護会が実施するさまざまなキャンペーンや発信に呼応して事業所として協力しました。さらに正月三が日については春日大社を含め、事業所独自の活動をする中でよい評価をいただきました。

それらを通じて所員の「鹿の命を守る仕事」としての意識が高まりました。

① 経営の安定に向けて事業所利用者(所員)を早期に 10 名、年度内に 12 名にします。HP 等開設し、「広報活動」をおこないます。

→総括

- ・「リーフレット」を作成し関係者を中心に拡げる中、問い合わせ、見学などが寄せられ、

所員増につながりました。

・HP についてはその必要性を感じながらもコロナ完成症対策や財政的な問題からなかなか手をつけられませんでした。しかし、終盤期に出来るだけ経費を抑えること、そのために職員の「手作り感」を出し、事業所の日々の活動が UP 出来るよう専門家に依頼しながら開設にむけて取り組んでいます。

② 所員の障害特性に合った新たな「仕事」「作業」を検討していきます。

→総括

・委託事業だけでなく新たな仕事の開拓をすすめていこうと「レアメタル」を模索し、職員の見学等実施しましたが具体化までつながりませんでした。

・「したい仕事をやってみる」ということで車の洗車に取り組む所員が出来ました。まだまだ本格的ではありませんが、毎回職員と打合せ、の上、本人自身の振り返りも行えるようになってきています。

・作業開始から 1 年をむかえ、所員それぞれの「したいこと、やれると思うこと」が出てきて、それを大切にするために「奈良公園一人作業」に取り組む所員も出ています。愛護会にも連絡し、公園内でも「認知」され多くの方から声をかけてもらうことで本人の「やる気」も大きくなっています。

③ 「仕事」の確保と明るい職場づくり、生活全般に向けた支援を通じて所員の「働く意欲」生活の充実をめざします。

→総括

・概ね月 1 回の個別面談(懇談)を実施し、仕事だけでなく、生活全般の情報収集と意見交換をおこなっています。

・家族にむけてはコロナ関連を含め、その都度「お知らせ」を配布し、様子と事業所の方針を伝えるようにしました。また、個別に電話等による問い合わせ、こちらからの報告をおこなうことで細かな情報共有をおこない、家族の方々から概ね歓迎されています。

・単身生活者、家族同居を含め個別に必要な家庭訪問を実施しています。

④ 「人が城なり」との精神で所員と職員の労働条件の向上を統一して取り組み、その適正化につとめます。

→総括

・悪天候時等、時間に拘束されるのではなく「やることをやり、早めに切り上げる

・所員、職員とも「1 か月シフト制」であることを踏まえ、公休希望など柔軟に対応し、それぞれが無理のないように配慮しました。

・所員、職員の有給休暇、諸休暇(職員のみ)を適正に管理しました。

・法人独自で決めた「コロナ特別休暇」について所員 2 名、職員 1 名が該当利用しました。

- ⑤ ファミリーサポート事業として、家族へのファイナンシャルプランの拡散をはかります。

→総括

・法人や事業所独自でのとりくみは出来ませんでした。

所員が個々の状況、家族の状況からみて経済問題を中心にした将来(家族亡きあと)の問題は深刻度を増したいです。個々のケースにしっかり対応しながら将来について家族と一緒に考えていく必要があります。

- ⑥ 「仕事の場」の確保の次のステージとして「生活の場」としてのグループホームの検討を関係者とともにすすめます。

→総括

・法人、事業所独自でのとりくみは出来ませんでした。別法人が計画するホームについて助言をおこなう場はもたれました。

この1年を通じて家族の老齢化、体調不良、一人暮らしの所員の生活不安などが表面化しています。

法人あげて「安心して暮らし、働ける」生活の場の確保は急がねばなりません。

- ⑦ 「計画相談」(相談員がサービス等利用計画を作成するシステム)のさらなる連携をすすめながら、自分の思いを自分で描く「セルフプラン」の方向もさぐっていきます。

→総括

・セルフプランで利用開始する人についてその内容について作成援助しました。

・個別ケースについて、可能な限り関係機関の連携をもとめ、カンファレンスへの参加、相談員がおこなう、モニタリングへの同席などおこないました。

- 2 奈良市内を中心とする小規模法人、関係団体との連携を強めます。

- ① 「共同事業」「新規事業」を模索していきます
- ② 小規模法人の連携に向けて当法人がリードしていきます。
- ③ 職員の「人材シェア」を検討、具体化し、ひろく人材育成につとめます。

→総括

・「小規模法人連携会議」を主導して開催しました。別法人への助言等にとどまり、また参加法人の拡大もありませんでした。

- 3 障害者福祉、街づくり等、広く社会活動にとりくみ社会貢献活動をすすめます。

→総括

・障害者福祉だけでなく広く福祉全般の情報収集をおこない、職員間で「情勢議論」を出来るようにしてきました。

→特別総括

新型コロナウイルス感染症対応について

事業所開設後すぐに新型コロナウイルス感染症の拡大がありました。

当法人は

- ① マスク、手洗い、毎朝の体温測定、体調異常時の連絡体制等の徹底を家族への連絡、連携を含めて徹底しました。
- ② マスク、消毒液の不足に対して当時高額ではありましたが 5000 枚のマスク、10l のアルコールを確保しました。不足する他の事業所にも無償で一部を供給しました。
- ③ 所員、職員に「コロナ感染特別休暇」を決定し、本人及び家族等が安心して療養できるようにしました。
- ④ 常に所員、家族に情報提供、情報収集に努めました。

以上の結果、3月15日現在で

「疑い(PCR 検査実施)→陰性」所員 2名 職員 1名

家族の陽性にともなう PCR 検査実施→陰性 非常勤職員 1名

学校休校に伴う職員の欠勤 1名

でした。ともに欠勤期間は「特別休暇」扱いとしました。

資料

1 月別利用者(所員)数 請求日数

月	登録者数(人)	請求日数(日)	給付額(処遇改善加算含)
4	8	151	821,261 7人
5	8	179	1,010,621 7人
6	8	173	969,260 8人
7	9	178+欠加4	1,005,792 9人
8	9	195+欠加4	1,097,735 9人
9	9	193+欠加2	1,283,619 9人
10	9	201+欠加1	1,336,125 9人
11	10	200+欠加4	1,335,701 10人
12	10	211	1,408,133 10人
1	10	225	1,497,252 11人
2	11	203	1,366,818 11人
3	11	242	1,558,670 11人

21/3月時点 当該月-8日 8人 20日 1人 21日 1人 MAX15日 1人

2 委託費

奈良の鹿愛護会	年	14,853,960 円		
青垣協同組合	年	1,885,730 円		
春日大社	年	803,000 円	総額	年 17,542,690 円

3 日課及び委託事業

4 月当初 9:00~17:00(6 時間勤務)

8 月~ 8:30~16:30(6 時間勤務)

8:50~朝礼(仕事の確認、連絡事項等)

9:00 作業出発 奈良公園 春日大社 大淵池公園(火曜日休み) (週1回~2回 段ボール回収)

12:00 昼食 休憩

14:00 午後作業出発

15:50 帰所

16:10 終礼(仕事のまとめ、明日の予定、連絡事項等)

16:30 退所